

【分科会の成果と課題】

[成果]

◇ 幼保・小・中連携を推進するための教頭の役割について、提言者の取組をもとに、校種や学校規模、地域性等の自校の実態を踏まえ、今後の連携の視点について活発な協議ができた。

◇ ご指導では、提言者の取組の成果と課題、連携を行う上での教頭としての役割を具体的に示していただき、今後の取組への意識を高めることができた。

◇ 幼保・小・中が、学力向上や生徒指導など各部会の取組について、各校の連携が進んでいる。教頭会の果たす役割を明確にした具体的な関与の仕方、既存の組織や地域システムの活用が成功の鍵となることを認識できた。



[課題]

◆ 小学校間の横の連携、園・小・中の縦の連携の他に、保護者・地域住民との斜めの連携をどう構築していくかが今後の鍵である。

◆ 予算措置のある地域と、特になされていないため、学校でやりくりしないと活動できない地域がある。行政の援助も重要なポイントである。

◆ 教頭として、小中連携の取組への関与性をさらに高めていく必要がある。新任教頭が多いところでは、サポートシステムづくりが必要である。

【上越地区ブロック別研究大会の成果と課題】

[成果]

◇ 柏崎市刈羽郡教頭会では開催の1年以上前から組織を編成して計画的に実行委員会を開催し、共通理解を図りながら取り組むことができた。

◇ アンケートでは、すべての項目において98%を超える肯定的評価をいただいた。特に、分科会運営において、少人数によるグループ協議がよかったと100%の評価だった。全会員にとって、有意義な大会になったと感じている。



[課題]

◆ アンケートでは、10%の会員が大会期日について改善を要すると評価した。また、欠席した会員も複数人に上った。音楽祭等の学校行事と重なる時期のため、本研究大会の実施期日を、全会員に早めに確実に周知してきたが昨年度同様であった。開催時期を再検討する必要がある。